



0～12歳の保護者の方へ

交通事故から 子どもを守りましょう

～子どもの安全、守るのは大人の務めと親の愛～



制作：（一財）京都府交通安全協会



0～12歳の保護者の方へ

交通事故から 子どもを守りましょう

～子どもの安全、守るのは大人の務めと親の愛～

はじめに

「魔の7歳」という言葉を聞いたことがありますか？

実は交通事故に最も遭いやすいのは7歳の子どもだと言われています。

まだまだ未就学児の面影が強く残り、
小柄な外見で動きも不規則で、予想外の行動を
取ったりする一方で、小学校に入学して
親の手を離れ、一人で登下校したり、外遊びを
したりするようになることがあげられます。



このような年齢の子どもが交通事故に遭わないために、
大人はどんなことに気を付けなければならないのでしょうか。

この本は、0～12歳のお子さんを持つ保護者の方に向けた
交通安全教本です。

この本を参考に、大切なお子さんはもちろんのこと、
保護者の方ご自身も、交通事故から
命を守る安全行動を習慣付けてくださいね。



ご注意

この本では、子ども（赤ちゃん・幼児・幼少期）という名称が出てきます。
この本における各名称の年齢の目安は次のとおりですが、
その特性はお子さんによって差がありますので、ご注意ください。

赤ちゃん

0～1 歳程度

幼 児

1～6 歳程度

幼少期

7～12 歳程度

子ども

0～12 歳程度



幼児・幼少期の特徴を知りましょう

【1】夢中になると周囲のものが目に入らなくなる

遊びやおしゃべりに夢中になり、**近づく車に気が付かない、**
ボールを追いかけて道路に飛び出すなど、
ひとつのことに夢中になると周りが見えなくなります。

【2】物事を単純にしか理解できない

車はすぐ止まってくれる、
車の運転者はいつも自分を見ている
ものだ**と思い込んでいる**傾向があります。
車の死角や制動距離について理解できません。



【3】 そのときどきの気分によって行動が変わる

嬉しいこと、悲しいことで頭がいっぱいになると周囲が見えなくなり、周りを見ないで道路を渡ったり、時には急に走り出す傾向があります。

【4】 物の陰で遊ぶ傾向がある

駐車車両や電柱など、物陰に隠れて遊ぶことを好み、それが危険であることがわかりません。



【5】 抽象的な言葉ではよく理解できない

ただ「危ないよ」「注意なさい」と言うだけでは、具体的な安全行動には結びつきません。



【6】 応用動作ができない

「見通しが悪いから、止まって確認なさい」と教えても、「見通しが悪い」の意味が理解できていなければ、その場所では止まっても、他の場所でも止まるとは限りません。
“言われた場所だから止まっただけ” かもしれません。



見通しが悪い場所や危険な場所については、そこで止まる理由を具体的に・気長に教える必要があります。

帝塚山大学 客員教授 名誉教授 蓮花一己監修

0～12歳の保護者の方向け

交通安全教本 販売決定！



仕様

- ・ A5 サイズ
- ・ 表紙込み 32P
- ・ 全ページフルカラー

販売場所・販売価格

- ・ 啓発ブース 180 円
 - ・ 通販 (BASE) 200 円+送料
 - ・ kindle 180 円
- ※kindle は電子販売です。

【この本の主な内容】

はじめに・子どもの特徴や能力／①チャイルドシートの正しい着用
②車に乗る・下りるときの3ステップ／③歩くポジションと安全な
道路の横断／④車の特性や合図の意味の確認／⑤遊べる場所と遊べ
ない場所の確認／⑦ドライバーが注意すべきこと 他

詳しくは京都府交通安全協会 HP をご覧ください。